

陽気に誘われ…里山へ、梅林へ



里山和楽会が観察会

小倉台にある「かがやきの森」で4月2日、春の自然観察会が開かれました。まだ肌寒いですが、木々の芽は息吹き、かわいい紫菀やアセビの白い花が咲き誇っています。集合は午前10時。家族連れや近隣の人たち36人が参加したので2班に分け里山和楽会のガイド役4人ずつがついた。入山時の注意、山に生息する危険な動植物についての説明のあと出発。コースはひんやりした山の冷気のなか、風の音や小鳥のさえずりを聞きながら1・8キロの散策です。

この日の観察会の内容・目的は――①花芽を取ったり、匂いを嗅いだりしながら約30種ある樹木の名を解説する。②落ち葉を収集して「堆肥」について学ぶ。③里山林の整備と再生方法の解説。④展望台からの景観についての説明の4項目です。

道が狭いので、参加者は横列進行。説明を聞いたり、質問したり、おしゃべりしながらの散策です。子どもたちは大声をあげ、落ち葉や枝を拾って大はしゃぎ。

「自然環境にすぐなじめるんだな」とびっくりです。10時半過ぎ、展望台から眼前に広がる丹生山や湯桶山街道を眺めて暫し休憩。私たちが数年かけて整備してきた里山林の景観と、反対側に広がる放置林の景観の違いを見てもらいました。＝写真㊦

この後、山を下り梅林を通り抜けて堆肥庫へ。落ち



葉が熟成して有機肥料になる過程を説明。環境省の里山50選の看板前で記念撮影をして11時30分、散会しました。(里山和楽会代表・道満俊徳、筑紫丘在住)

花山で観梅会

3月12日は花山観梅会。風もなく穏やかな上天気にも恵まれました。青空に赤、白、ピンクの梅の花が映え、青いシートを広げて、後はお客様を待つばかり。ところが、車は次々と入って来るけれど、みんな運動場の方に消えてしまい、観梅組はぼつりぼつりというありさま。そうか、少年野球の試合をやっているのでは若い人は花よりスポーツなのかな？

お客を呼び込むため、即席でのぼりを2か所に設置。少しは功を奏したらしく、ぼつぼつお客の声も梅の間から聞こえだし、青いシートも埋ってきました。

ぽかぽか陽気と甘酒とやさしい梅の花に囲まれて、みなさん体の内も外も、心も筋肉もほぐれて、話が弾み、笑い声が梅林にこだましました。(＝写真㊦)

見知らぬ人同士、世間話をしながら触れ合える、これこそ梅林が求めている地域の癒しの場です。梅林を広げ、維持する会員の日頃の労苦が報われるときです。

子どもたちが生き生きと梅実採りをする姿、作った梅ジュースや梅ジャムに舌鼓をうつ姿も、私たちシルバー会員のエネルギーの原動力なのです。

(花山梅林会・徳原尚代、国9) (昨年撮影)

